

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「シン読解力！」～

1月17・18日に共通テストが実施されました。昨年同様、全般的に思考力・判断力を問う内容の問題が多く、知識については、おおむね基本的なものでした。また、文章を読み取る力が(読解力)が結果に大きく影響するのではないかと感じました。

さて、10年ほど前から国立情報学研究所のリーディングスキルテストが実施されているのですが・・・その結果によると・・・では、どうぞ

課題文:「仏教は東南アジア、東アジアに、キリスト教は、ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニアに、イスラム教は北アフリカ、西アジア、中央アジア、東南アジアにおもに広がっている。」

問:オセアニアに広がっている宗教は何か。次から選びなさい。

①ヒンドゥー教 ②キリスト教 ③イスラム教 ④仏教

正解は・・・もちろん・・・キリスト教ですが、中学生の約40%が間違うのです。

課題文:「Alexは男性にも女性にも使われる名前で、女性の名Alexandraの愛称であるが、男性のAlexanderの愛称でもある。」

問:Alexandraの愛称は何か?次から選びなさい。

①Alex ②Alexander ③男性 ④女性

この問題では、中学生の60%以上が誤答しています。

正解・・・①Alex(38%)より④女性(39%)を解答しているのです。

この結果が報じられたときには教育界に衝撃が走りました。

同研究所の新井紀子教授は、「女性のAlexandra」の主語が「Alex」であることを見落としているからと分析します。省略された主語が読み取れないのです。もう一つは「愛称」という語の意味(知識)を知らないから飛ばして読んでしまう。そんな習性があるからではないかとおっしゃっています。

かつては読書に親しむことで新たなボキャブラリーやいろいろな言い回しを自然に覚えたものですが、現在はSNSで目にするのは片言隻句(少しだけの言葉。一言だけの短い言葉。)が大半。

読者に内在する想像力の働きを促そうとする場合もあります。文章は何もかも露わに書いているわけではないのです。省略や含みなどが隠されているから読み飛ばせない。この「行間を読む」のも読解力です。

文章が読めないために勉強につまずくことは文系科目だけではなく理系科目でも生じます。

例えば、特有の用語や概念、文の順序や論理構成などをよみとらないといけません。

また、こうしたスキルはSNSでつかう短いテキストメッセージでは獲得不可能です。

読解力が備われば独りの力でも必要なテキストを読みこなして社会で生きる知見が得られます。

読解力は自己教育力なのです。

『致知』2月号「風の便り」『読解力危うし!』占部賢志より

日本史探究・歴史総合などでは、風刺画や川柳・落書・史料からの出題も多く出てくるようになってきています。

右の風刺画は、知っていますか?中学でも出てきたのでは?

そう!ピゴーの作品ですね。

朝鮮半島をめぐる日清の対立とロシアの野心を表現したものですね。これらも読解力が試される問題なのかもしれませんね。

高校時代に「**読解力という自己教育力**」身につけたいものですね。

